

2013年3月期第2四半期 決算概要説明資料

2012年10月29日

 日立電線株式会社

目次

1. 2013年3月期第2四半期決算の概要
2. 2013年3月期決算の見通し

1-1. 連結損益計算書

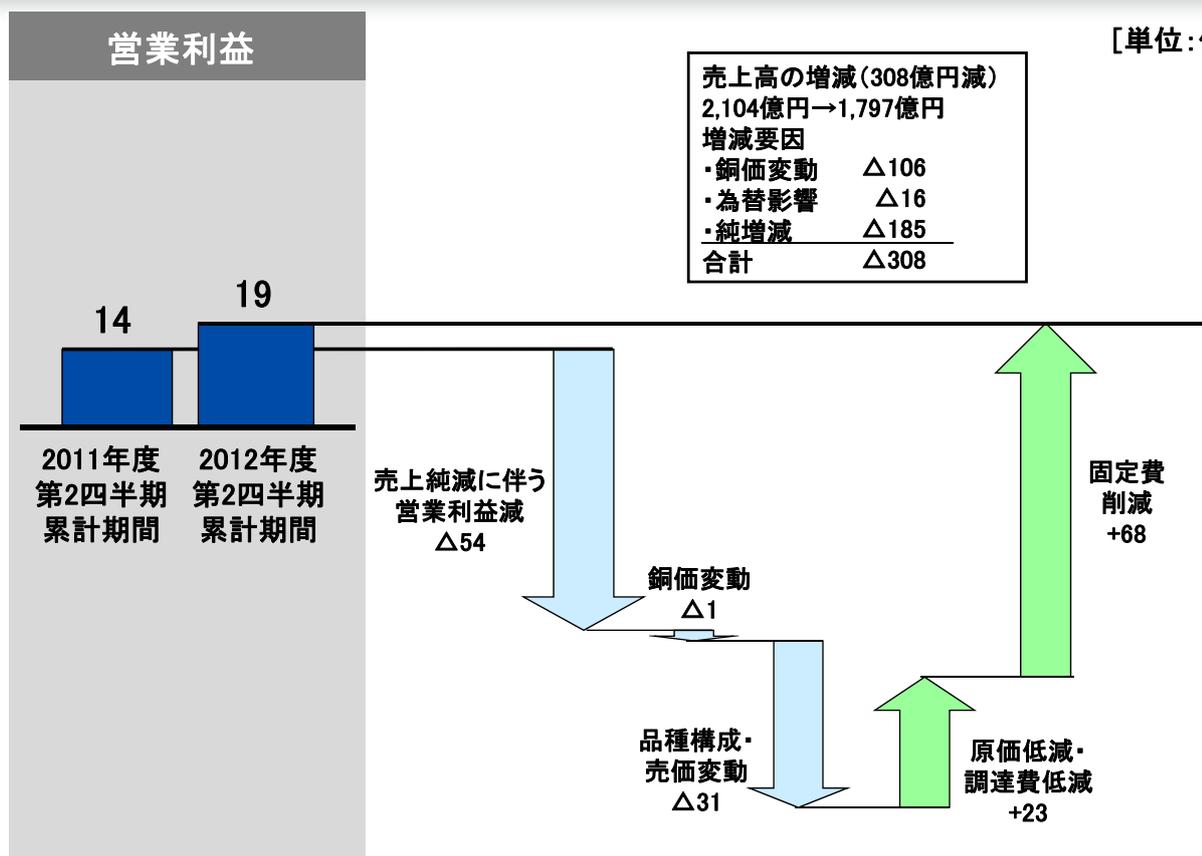
[単位: 億円]

	2011年度 第2四半期 累計期間	2012年度 第2四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
売上高	2,104	1,797	(85%) △308	(100%) △3
営業利益	14	19	+6	+4
営業外損益	△11	4	+14	△1
経常利益	3	23	+20	+3
特別損益	△85	△8	+77	△3
税金等調整前 四半期純利益	△82	15	+97	△0
法人税等	7	6	△1	△2
少数株主利益	2	1	△0	△1
四半期純利益	△91	7	+98	+2

・2012年度第2四半期累計期間: 2012年4月1日～2012年9月30日
 ・単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。
 ※2012年7月27日時点予想値比

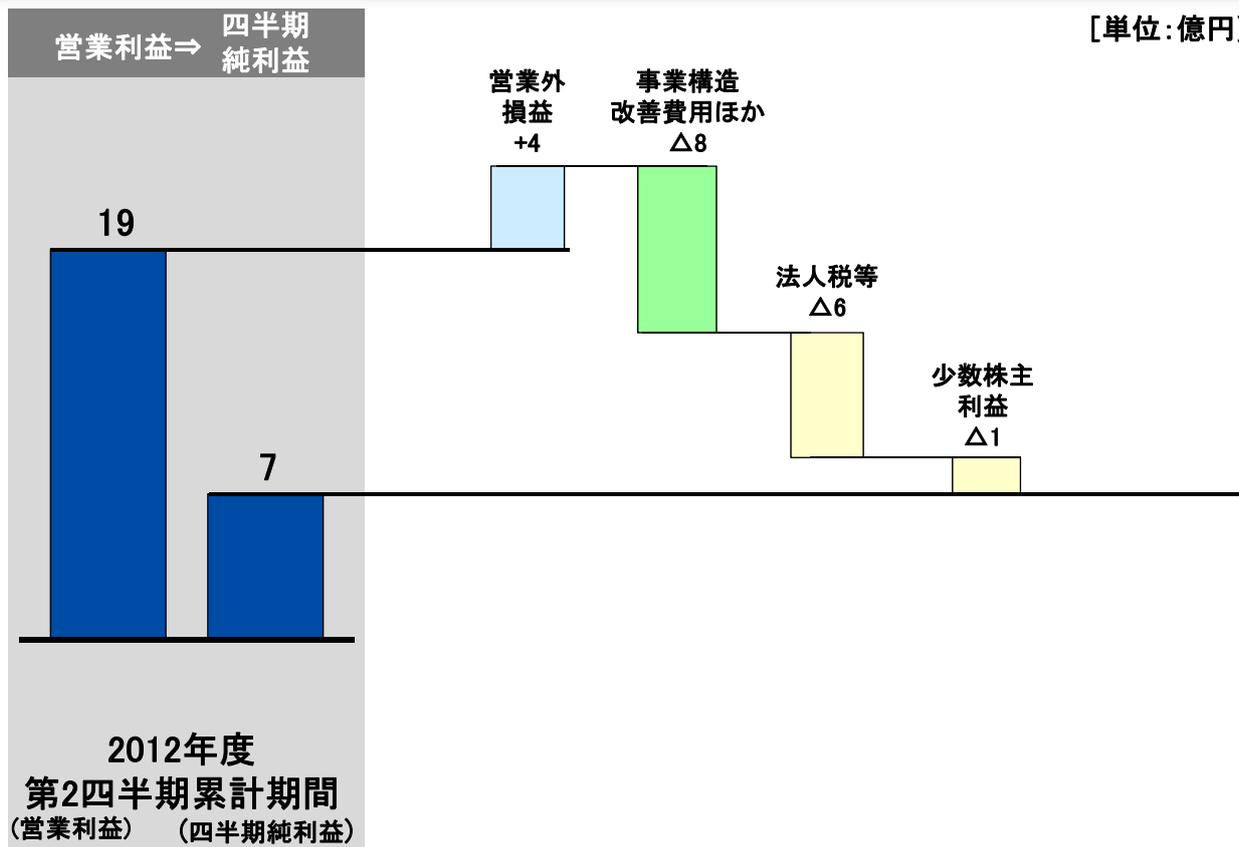
1-2. 営業利益の主な増減要因(前年同期比)

[単位: 億円]



1-3. 四半期純利益の主な内訳

[単位: 億円]



1-4. 連結貸借対照表、キャッシュ・フロー

[単位: 億円]

	2012年3月期末	2012年9月期末	前期末比
総資産	2,459	2,616	+157
負債合計	1,628	1,790	+162
うち有利子負債	502	484	Δ18
自己資本	812	808	Δ4
自己資本比率	33.0%	30.9%	Δ2.1%
D/Eレシオ	0.60	0.59	Δ0.01

	2011年度 第2四半期 累計期間	2012年度 第2四半期 累計期間	前年同期比
営業キャッシュ・フロー	Δ92	114	+206
投資キャッシュ・フロー	Δ46	Δ23	+23
フリー・キャッシュ・フロー	Δ138	91	+229

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-5. 報告セグメント別売上高

[単位: 億円]

	2011年度 第2四半期 累計期間	2012年度 第2四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
産業インフラ	391	379	97%	100%
電機・自動車部品	771	739	96%	101%
情報デバイス	228	197	86%	96%
金属材料	501	300	60%	95%
販売会社・物流	213	182	86%	107%
合計	2,104	1,797	85%	100%

※2012年7月27日時点予想値比

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-6. 報告セグメント別営業損益

[単位: 億円]

	2011年度 第2四半期 累計期間	2012年度 第2四半期 累計期間	前年 同期比	見通し比※
産業インフラ	△4	0	+4	△5
電機・自動車部品	9	19	+11	+4
情報デバイス	△3	5	+8	+3
金属材料	△5	△13	△8	△1
販売会社・物流	13	12	△1	+2
調整額	4	△5	△9	△0
合計	14	19	+6	+4

※2012年7月27日時点予想値比

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

1-7. 設備投資、研究開発費、従業員数等 HitachiCable

(1) 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位: 億円]

	2011年度 第2四半期 累計期間	2012年度 第2四半期 累計期間	前年同期比
設備投資	57	50	87%
減価償却費	81	60	74%
研究開発費 (売上高研究開発費比率)	44 (2.1%)	38 (2.1%)	86%

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。

(2) 従業員数

[単位: 人]

	2012年3月末	2012年9月末	前期比
従業員数	14,142	13,331	△811

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 9

1-8. セグメント別概況: 産業インフラ HitachiCable

[単位: 億円]

	2011年度 第2四半期 (実績)	2012年度 第2四半期 (前回見通し)※	2012年度 第2四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
電力・産業システム	352	340	342	97%	100%
光通信	39	40	38	96%	94%
売上高 合計	391	380	379	97%	100%
営業利益	△4	5	0	+4	△5

電力・産業システム 【売上高】 建設用電線・ケーブルは堅調でしたが、耐熱電線や鉄道車両用電線・ケーブル等は国内で民間企業の設備投資や鉄道新設案件の需要が低調だったことから前年同期を下回りました。

光通信 【売上高】 メタルケーブルは国内民間企業の設備投資需要が低調となり、光ファイバも国内市場における競争激化の影響を受けたことにより、前年同期を下回りました。

営業利益 売上高は減少したものの、コスト削減効果等の影響により前年同期を上回りました。一方、耐熱電線や鉄道車両用電線・ケーブル等の売上減少により前回見通しを下回りました。

※2012年7月27日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 10

1-9. セグメント別概況：電機・自動車部品

[単位：億円]

	2011年度 第2四半期 (実績)	2012年度 第2四半期 (前回見通し)※	2012年度 第2四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
自動車部品	194	220	219	113%	100%
電子材料	203	170	170	84%	100%
巻線製線	374	340	349	93%	103%
売上高 合計	771	730	739	96%	101%
営業利益	9	15	19	+11	+4

自動車部品 【売上高】	国内や北米を中心に世界的に自動車販売台数が増加したことや、注力分野である電装部品が伸長したこと等により、前年同期を上回りました。
電子材料 【売上高】	エレクトロニクス機器向けや半導体製造装置向けの製品が低調となったこと等により、前年同期を下回りました。
巻線製線 【売上高】	電装分野向けは自動車販売台数の増加に伴い好調でした。重電分野向けも柱上変圧器向けが堅調でしたが、巻線全体では主要な原材料である銅の価格が前年同期と比較して低水準であったことから、前年同期を下回りました。
営業利益	売上高は減少したものの、コスト削減効果や注力分野である電装部品の伸長により前年同期および見通しを上回りました。

※2012年7月27日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 11

1-10. セグメント別概況：情報デバイス

[単位：億円]

	2011年度 第2四半期 (実績)	2012年度 第2四半期 (前回見通し)※	2012年度 第2四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
情報ネットワーク	119	120	120	101%	100%
ワイヤレスシステム	51	60	51	100%	85%
化合物半導体	58	25	25	44%	102%
売上高 合計	228	205	197	86%	96%
営業利益	△3	2	5	+8	+3

情報ネットワーク 【売上高】	ネットワーク機器は携帯電話事業者の設備投資需要、インテグレーション事業は民間企業のIT設備投資需要によりそれぞれ堅調に推移しました。光伝送デバイスは在庫調整により減少しましたが、情報ネットワーク全体としては前年同期を若干上回りました。
ワイヤレスシステム 【売上高】	プラチナバンドと呼ばれる周波数帯の新規認可に対応した携帯電話事業者向けの需要が増加しましたが、放送設備向け製品・工事が減少し、全体では前年同期並みの水準となりました。
化合物半導体 【売上高】	光デバイスは光ディスク需要の低迷により低調となり、高周波デバイス用も代替素材との競合等の影響により落ち込み、前年同期を大きく下回りました。
営業利益	売上高は減少したもののコスト削減効果や品種構成の改善等により前年同期および見通しを上回りました。

※2012年7月27日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 12

1-11. セグメント別概況：金属材料

[単位：億円]

	2011年度 第2四半期 (実績)	2012年度 第2四半期 (前回見通し)※	2012年度 第2四半期 (実績)	前年 同期比	見通し比
銅条	171	150	138	80%	92%
電伸	216	100	95	44%	95%
リードフレーム	64	50	50	79%	100%
パッケージ材料	50	15	17	33%	111%
売上高 合計	501	315	300	60%	95%
営業利益	△5	△12	△13	△8	△1

銅条 【売上高】	銅箔は、車載用が好調に推移しましたが、半導体・エレクトロニクス市場向け製品は需要減少が続き、全体としては前年同期を下回りました。
電伸 【売上高】	国内銅管事業撤退に加え、電気用伸銅品・加工品が国内設備投資需要の減少の影響を受けたことや、超電導線も国際プロジェクト向け出荷が減少したことから前年同期を下回りました。
リードフレーム 【売上高】	半導体・エレクトロニクス市場向け製品の需要が減少し、前年同期を下回りました。
パッケージ材料 【売上高】	メモリー用途及び特定用途とも低水準となり、前年同期を下回りました。
営業利益	売上高減少の影響が大きく、前年同期および見通しを下回りました。

※2012年7月27日時点予想値

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 13

目次

1. 2013年3月期第2四半期決算の概要
2. 2013年3月期決算の見通し

2-1. 2013年3月期決算の見通し

[単位: 億円]

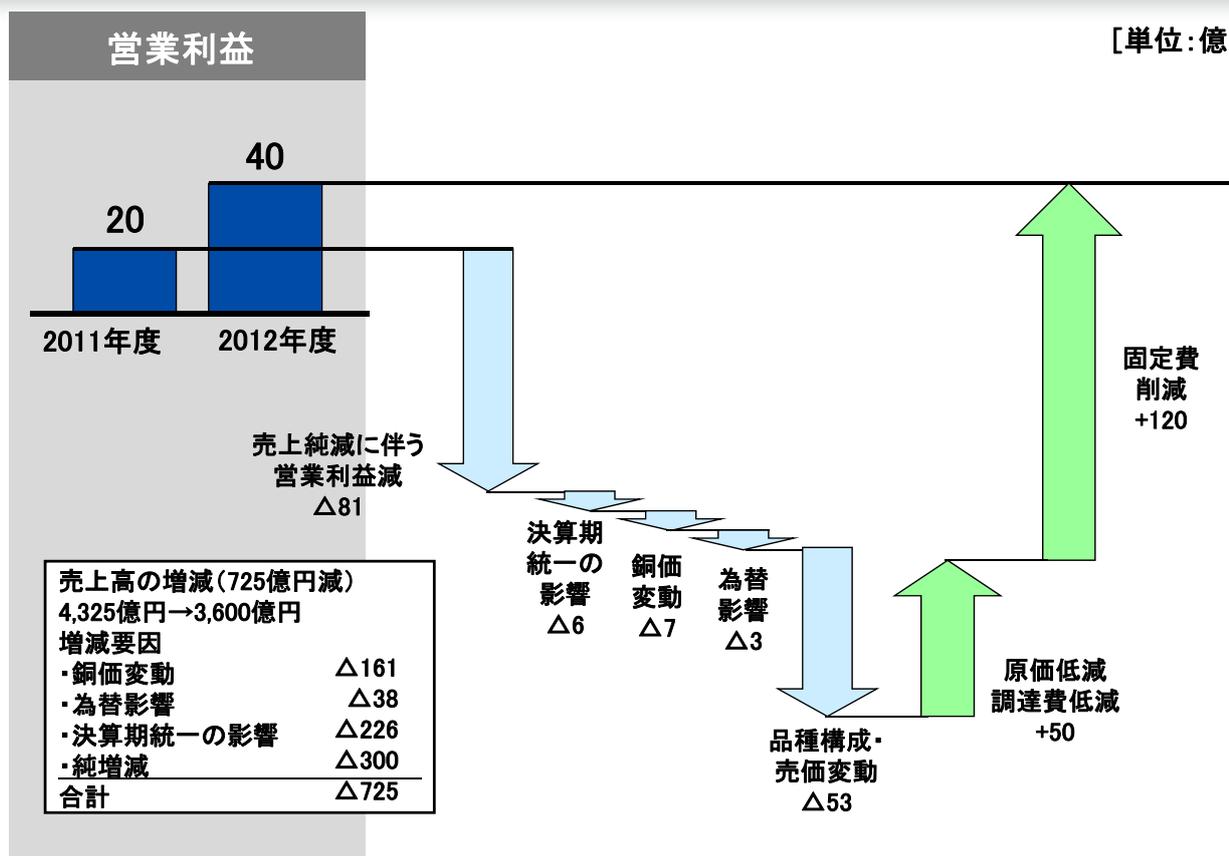
	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回予想)※	2013年3月期 (今回予想)	前期比	見通し比
売上高	4,325	3,600	3,600	(83%) △725	(100%) 0
営業利益	20	70	40	+20	△30
営業外損益	△10	5	0	+10	△5
経常利益	9	75	40	+31	△35
特別損益	△221	△40	△115	+106	△75
税金等調整前 当期純利益	△211	35	△75	+136	△110
法人税等・ 少数株主利益	16	20	15	△1	△5
当期純利益	△228	15	△90	+138	△105

・2012年3月期(実績): 銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想) 第1～第2四半期(実績): 銅価66万円/トン 為替79円/ドル、第3～第4四半期(予想): 銅価65万円/トン 為替75円/ドル
 ・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。
 ※2012年7月27日公表値

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 15

2-2. 営業利益の主な増減要因(前年比)

[単位: 億円]



©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 16

2-3. 設備投資、研究開発費、従業員数等 HitachiCable

(1) 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位: 億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
設備投資	129	110	110	85%	100%
減価償却費	167	125	125	75%	100%
研究開発費 (売上高研究開発費比率)	88 (2.0%)	90 (2.5%)	90 (2.5%)	103%	100%

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。
 ※2012年7月27日公表値

(2) 従業員数

[単位: 人]

	2012年3月末	2013年3月末 (今回見通し)	前期比
従業員数	14,142	12,100	△2,042

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 17

2-4. 報告セグメントの組み換え

HitachiCable

[単位: 億円]

2013年3月期 旧セグメント					2013年3月期 新セグメント				
	上期(実績)		通期(見通し)			上期(実績)		通期(見通し)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		売上高	営業利益	売上高	営業利益
電力・産業システム	342	-	660	-	電力・産業システム	342	-	660	-
光通信	38	-	80	-	電子・通信材料	208	-	370	-
産業インフラ	379	0	740	15	産業インフラ	549	6	1,030	20
自動車部品	219	-	450	-	自動車部品	219	-	450	-
電子材料	170	-	330	-	電機材料	349	-	720	-
巻線製線	349	-	680	-	電機・自動車部品	569	14	1,170	30
電機・自動車部品	739	19	1,460	35	情報ネットワーク	120	-	290	-
情報ネットワーク	120	-	290	-	ワイヤレスシステム	51	-	130	-
ワイヤレスシステム	51	-	130	-	化合物半導体	25	-	50	-
化合物半導体	25	-	50	-	情報デバイス	197	5	470	20
情報デバイス	197	5	470	20	銅条	138	-	230	-
銅条	138	-	230	-	電伸	95	-	190	-
電伸	95	-	190	-	リードフレーム	50	-	95	-
リードフレーム	50	-	95	-	パッケージ材料	17	-	35	-
パッケージ材料	17	-	35	-	金属材料	300	△13	550	△40
金属材料	300	△13	550	△40	販売会社・物流	182	12	380	20
販売会社・物流	182	12	380	20	調整額	-	△5	-	△10
調整額	-	△5	-	△10	合計	1,797	19	3,600	40
合計	1,797	19	3,600	40					

- ① 電子材料を産業インフラ事業へ移管の上、光通信と統合し、電子・通信材料と改称
 ② 電子材料の伸線事業を巻線製線と統合し、電機材料と改称

(注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 18

2-5. 報告セグメント別売上高の見通し

[単位:億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
電力・産業システム	704	650	660	94%	102%
電子・通信材料	496	380	370	75%	97%
産業インフラ	1,200	1,030	1,030	86%	100%
自動車部品	505	450	450	89%	100%
電機材料	827	720	720	87%	100%
電機・自動車部品	1,332	1,170	1,170	88%	100%
情報ネットワーク	273	290	290	106%	100%
ワイヤレスシステム	112	120	130	116%	108%
化合物半導体	95	50	50	53%	100%
情報デバイス	480	460	470	98%	102%
銅条	291	280	230	79%	82%
電伸	367	190	190	52%	100%
リードフレーム	131	100	95	73%	95%
パッケージ材料	76	30	35	46%	117%
金属材料	865	600	550	64%	92%
販売会社・物流	448	340	380	85%	112%
合計	4,325	3,600	3,600	83%	100%

・2012年3月期(実績): 銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想) 第1～第2四半期(実績): 銅価66万円/トン 為替79円/ドル、第3～第4四半期(予想): 銅価65万円/トン 為替75円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 ・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。
 ・上記表中の数値は、2012年10月1日からの新セグメントへの組み替え後の数値を表示しております。
 ※2012年7月27日公表値

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 19

2-6. 報告セグメント別営業損益の見通し

[単位:億円]

	2012年3月期 (実績)	2013年3月期 (前回見通し)※	2013年3月期 (今回見通し)	前期比	見通し比
産業 インフラ	△4	35	20	+24	△15
電機・ 自動車部品	19	30	30	+11	0
情報 デバイス	5	20	20	+15	0
金属材料	△21	△20	△40	△19	△20
販売会社・物流	28	20	20	△8	0
調整額	△8	△15	△10	△2	+5
合計	20	70	40	+20	△30

・2012年3月期(実績): 銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想) 第1～第2四半期(実績): 銅価66万円/トン 為替79円/ドル、第3～第4四半期(予想): 銅価65万円/トン 為替75円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 ・2012年3月期(実績)には海外連結子会社の決算期統一による影響が含まれております。
 ・上記表中の数値は、2012年10月1日からの新セグメントへの組み替え後の数値を表示しております。
 ※2012年7月27日公表値

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 20

2-7.補足：報告セグメント別売上高の見通し

[単位：億円]

	2012年3月期 (実績)	決算期統一の 影響	2012年3月期 (決算期統一影響除く)	2013年3月期 (今回予想)	前期比
	A	B	C=A-B	D	D/C
電力・産業システム	704	0	704	660	94%
電子・通信材料	496	28	468	370	79%
産業インフラ	1,200	28	1,172	1,030	88%
自動車部品	505	81	424	450	106%
電機材料	827	71	756	720	95%
電機・自動車部品	1,332	152	1,180	1,170	99%
情報ネットワーク	273	0	273	290	106%
ワイヤレスシステム	112	0	112	130	116%
化合物半導体	95	2	93	50	54%
情報デバイス	480	2	478	470	98%
銅条	291	0	291	230	79%
電伸	367	0	367	190	52%
リードフレーム	131	9	122	95	78%
パッケージ材料	76	0	76	35	46%
金属材料	865	9	856	550	64%
販売会社・物流	448	36	413	380	92%
合計	4,325	226	4,100	3,600	88%

・2012年3月期(実績):銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想)第1~第2四半期(実績):銅価66万円/トン 為替79円/ドル、第3~第4四半期(予想):銅価65万円/トン 為替75円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 (注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 21

2-8.補足：報告セグメント別営業損益の見通し

[単位：億円]

	2012年3月期 (実績)	決算期統一の 影響	2012年3月期 (決算期統一影響除く)	2013年3月期 (予想)	前期比
	A	B	C=A-B	D	D-C
産業インフラ	△4	△1	△3	20	+23
電機・自動車部品	19	6	14	30	+16
情報デバイス	5	△0	6	20	+15
金属材料	△21	△1	△21	△40	△20
販売会社・物流	28	2	26	20	△6
調整額	△8	△0	△8	△10	△2
合計	20	6	14	40	+26

・2012年3月期(実績):銅価72万円/トン 為替79円/ドル
 ・2013年3月期(今回予想)第1~第2四半期(実績):銅価66万円/トン 為替79円/ドル、第3~第4四半期(予想):銅価65万円/トン 為替75円/ドル
 ・2012年3月期(実績)のセグメント別数値は会計監査人によるレビュー手続きは行っておりません。
 (注)単位未満を四捨五入しているため、個々の項目の合算と合計が合わない箇所がございます。

©2012 Hitachi Cable, Ltd. All rights reserved. 22

【参考資料】減価償却費、従業員数等(連結)

(1) 減価償却費ほか

[単位:百万円]

	平成24年3月期				平成25年3月期			
	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計	第1四半期累計 (4~6月)	第2四半期累計 (4~9月)	第3四半期累計 (4~12月)	年度 累計 【予想】
産業インフラ	1,057	2,142	3,264	4,629	880	1,759	—	3,500
電機・自動車部品	812	1,655	2,505	3,692	699	1,414	—	2,800
情報デバイス	887	1,819	2,757	3,739	671	1,255	—	3,000
金属材料	1,150	2,336	3,322	4,336	704	1,420	—	2,900
販売会社・物流	75	157	237	320	61	123	—	300
減価償却費合計	3,981	8,109	12,085	16,716	3,015	5,971	—	12,500
産業インフラ	766	1,823	2,858	4,630	758	1,599	—	3,200
電機・自動車部品	609	1,329	1,856	2,980	631	1,349	—	2,300
情報デバイス	566	1,313	1,961	2,587	580	1,203	—	3,200
金属材料	545	1,142	1,994	2,495	312	796	—	2,100
販売会社・物流	41	119	195	241	35	41	—	200
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額合計 (資本的支出)	2,527	5,726	8,864	12,933	2,316	4,988	—	11,000
研究開発費	2,166	4,411	6,573	8,776	1,877	3,798	—	9,000
売上高研究開発費比率	2.1%	2.1%	2.1%	2.0%	2.1%	2.1%	—	2.5%
有利子負債	51,297	53,903	54,055	50,176	47,989	48,386	—	49,000
金融収支	△ 144	△ 275	△ 451	△ 703	△ 110	△ 216	—	△ 700

※当連結会計年度より、当社及び国内連結子会社における有形固定資産の減価償却方法を従来の定率法から定額法に変更しております。

(2) 従業員数

[単位:人]

	平成23年 6月末	平成23年 9月末	平成23年 12月末	平成24年 3月末	平成24年 6月末	平成24年 9月末	平成24年 12月末	平成25年 3月末 【予想】
産業インフラ	6,395	6,404	6,313	5,344	4,907	4,984	—	—
電機・自動車部品	4,569	4,532	4,450	4,352	4,117	4,065	—	—
情報デバイス	1,174	1,166	1,135	1,035	1,028	1,016	—	—
金属材料	1,950	1,858	1,799	1,665	1,505	1,499	—	—
販売会社・物流	1,095	1,090	1,052	1,090	1,115	1,123	—	—
全社共通	775	769	744	656	650	644	—	—
従業員数合計	15,958	15,819	15,493	14,142	13,322	13,331	—	12,100

本資料における業績見通し等の数値は、2012年10月29日現在の予想または目標であり、当社が本資料作成時点において合理的と判断する一定の前提に基づいて算出しております。したがって、実際の業績は予想・目標と大きく異なることがあります。その要因のうち主なものは、次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア)における経済状況
- ・急激な技術変化、新製品・新技術の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社及びグループ会社の能力
- ・製品・材料市場、製品・材料市況の変動
- ・為替相場変動
- ・資金調達環境
- ・製品・材料需給、製品・材料市場及び為替相場等の変動に対する当社及びグループ会社の能力
- ・自社特許の保護及び他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・株式相場変動

本資料内に記載されたブランド名は、各所有者の商標または登録商標です。

(著作権について)

この資料のいかなる部分についても、その著作権その他の一切の権利は、日立電線株式会社に属しており、方法のいかんを問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

(お問い合わせ先)
総務部広報グループ 木暮、坪内
電話 03-6381-1050